



TOPIC
1

新企画！「教養講演会」を立ち上げました

教養教育推進部門では、平成 28 年度から新たに「教養講演会」という企画を立ち上げました。大学在学中に、自分の専門以外の分野を幅広く学んで、教養を身につけるのが大切だということをみなさんに伝えることが大きな目的です。もうひとつの目的は、この講演会を通して、これまでみなさんがまったく知らなかった学問の世界に触れてもらうことです。岐阜大学はさまざまな専門分野の教員、研究者がひとつのキャンパスに集結している総合大学であり、岐阜大学に入学されたみなさんに、そのメリットを知っていただきたいのです。講演会の内容の詳細については、現在、講演記録集を準備していますし、動画のドキュメントも、全共棟 1 階のモニターで流しますので、そちらをご覧ください。

第 1 回教養講演会

森脇久隆「森脇学長と教養について語ろう！」

2016 年 6 月 22 日 (水) 13:30 ~ 15:00 アクティヴ・ラーニング教室

「教養講演会」の記念すべき第 1 回目は、森脇久隆学長をお招きし、教養教育がいかに大事かについて語っていただきました。森脇学長はすでに入学式で新入生に向け、教養教育についてのメッセージを送られていますが、今回あらためてテーマを教養教育にしぼり、しかも参加者の学生たちと非常に近い距離でお話をいただくことができました。この講演会は、eplus という学生有志のグループとの共催という形をとりましたので、森脇学長のお話を伺ったあと、参加した 25 名の学生たちとの活発な意見交換が行われました。



教養教育について熱く語る森脇学長



講演後の学生たちとの記念撮影

第 2 回教養講演会

武村正義「選挙・政治—この国はどこへ行くのか」

2016 年 6 月 29 日 (水) 13:30 ~ 15:00 アクティヴ・ラーニング教室

平成 28 年 7 月から選挙権が 18 歳に引き下げられたことを受けて、1、2 年生を対象に投票への呼びかけをかねて、元内閣官房長官の武村正義氏をお招きして、投票の意味、投票の心構え、現代日本の政治状況、国際政治の動向について、くわしく語っていただきました。参加した学生は 21 名で、講演後には、学生たちから数多くの質問があり、武村氏はそのひとつひとつに丁寧に答えられていました。



武村正義氏の講演のようす

第 3 回教養講演会

清水義彦「なんで、英語勉強しなァんの？」と中学生に聞かれました。あなただったら、どう答えますか？」

2016 年 10 月 26 日 (水) 14:00 ~ 15:30 アクティヴ・ラーニング教室

「トピック 2」でも取り上げるように、教養教育推進部門では、平成 28 年度から全学共通教育科目の英語カリキュラムの改善に取り組んできました。大学の英語の授業に出席するだけでは、英語の運用力、実践力は身につけません。英語をマスターするには、授業以外の日々の英語学習が欠かせないと同時に、なぜ英語を学ぶのか、そのモチベーションがきわめて重要です。英語を学ばなくては、という必要性、必然性がなければ、英語学習に身が入らないのは当然です。そこで富山県立大学で英語の教員をされている清水義彦氏には、講演のなかでスカイプを使って、台湾の小学校とリアルタイムでつないで会話するという、まさに世界は英語でつながっているという実例を示しながら、これからなぜ英語が必要になるのか、という話をさせていただきました。講演には 58 名の参加があり、学生の関心の高さが伺えました。



講演する清水義彦氏



講演中、台湾の学校とスカイプで話す

TOPIC
2

英語カリキュラムの改善に向けて始動しました

岐阜大学の第3期中期目標に「1 学士課程教育のグローバル化を推進するため、全学共通教育において各学部の人材養成に応じた英語運用能力の基準と目標を平成 28 年度に定め、それに基づき組織化された教員集団による英語教育を実施する」という項目があります。この目標を達成するために、平成 28 年度から本格的に平成 29 年度以降の全学共通教育の英語のカリキュラム改善に取り組んできました。工学部と応用生物科学部の 1、2 年生を対象とした英語 1・2・3・4 の授業を以下に図示したように、「話す」「聴く」「読む」「書く」の 4 つのスキルに振り分け、効率的に英語を学ぶカリキュラムにしました。それに合わせて、英語を担当する教員の力が十分に発揮できるような体制を作って行きます。



TOPIC
3

授業参観を行いました

毎学期行っている学生による授業評価アンケートで高く評価された教員の授業内容を共有し、それぞれの授業改善に役立てることを目的に、授業参観を毎年、実施しています。授業参観の対象は、体育系の科目を除く講義形式の授業で、25 名以上の受講者がいること、昨年度の授業満足度が 4 以上であること、平成 26、27 年度に対象となっていない授業であることを条件に、人文科学、社会科学、自然科学、複合領域、第二外国語からそれぞれ 1 科目、英語は 2 科目を選んで実施しました。

人文科学は、松永洋介先生の音楽論（音楽への誘い）、社会科学は、金井幸子先生の社会法（労働と法）、自然科学は、清水英良先生の「教養の物理学」（物性の力学）、複合領域は、櫻田修先生の「岐阜の伝統産業」、第二外国語は、瀧藤千恵美先生の「ポルトガル語」、英語は、杉山容子先生の「英語 2」とヴァンヘトホフ・オノ先生の「英語 3」を選びました。

評価は右表のように、A. シラバス、B. 授業の準備、C. 授業の運営、D. 授業の内容、E. 自立的学習の増進という 5 つの項目を点検することによって行われます。「授業参観報告書」は、今後、平成 26～29 年度分をまとめて作成する予定になっています。

大項目	項目番号	点検内容
A. シラバスについて	A-1	講義の狙い（学習・教育目標）や教養教育における本講義の位置づけが明確に示されている
	A-2	講義の内容はシラバスと適合している
	A-3	講義のレベルはシラバスと適合している
B. 教材・資料等あるいは授業準備について	B-1	適切な内容・量の講義資料が配布されている
	B-2	わかりやすい授業教材（パワーポイント、動画など）を使っている
	B-3	実習・実験・観望等の準備は十分行われている
C. 授業運営について	C-1	話し方が工夫されている（明確に聞き取りやすい、スピードが適切、適切な間を取っている、など）
	C-2	板書が適切である（字や図がわかりやすい、量が適切、黒板の使い分け）
	C-3	授業の運び方、説明の仕方、調べ方の指導が適切に行われている
	C-4	学生が重要なポイントを理解しやすいように工夫されている（要約の板書、具体例の提示など）
D. 授業の内容・レベル・理解促進について	D-1	講義の中で理解の深まりが確認できる
	D-2	学生に質問を促し、理解度を確かめている
	D-3	小テストや練習問題などにより、理解度を確かめている
E. 自立的学習・学習意欲の増進	D-4	レポートや試験問題の正答解説を行い、学生に活用している
	E-1	学生が自ら考え、自立的に学習できるように工夫されている
	E-2	宿題を課せ、学習意欲を高められている
	E-3	学生が興味を持ち、学習意欲を持続できるように努めている
		その他特記事項

TOPIC
4

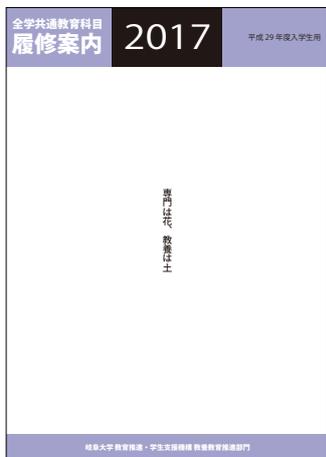
学生と教員のコラボレーション

「eplus」という有志の学生グループがあるのをみなさんはご存知でしょうか。このグループは、平成 26 年度に結成され、大学での学生の学習環境を良くするためにさまざまな提案をしてきました。現在のメンバーは、長屋くん、佐藤くん、永井さん、谷口くんです。教養教育推進部門では、全学共通教育に関して学生たちの意見をしっかりと聞き、学生たちと議論しながら、学生の学習環境の改善に取り組むことを重要な課題としています。大学という学びの場は、教員が一方的に学生に与えるのではなく、教員と学生の両者が一緒になって作り上げるものであると考えているからです。そうした考えをもとに、平成 28 年度はほぼ毎月 1 回、火曜日のお昼休みに教養教育推進部門長室に集まり、部門長、4 人の副部門長は、「eplus」のメンバーと教養講演会の広報の仕方、「パーティーゼミ」の企画、「全学共通教育科目履修案内」の見直しなどを行いました（2016 年 5 月 24 日、6 月 28 日、9 月 27 日、10 月 25 日、11 月 29 日、12 月 13 日、2017 年 1 月 10 日、1 月 24 日開催）。

TOPIC
5

「履修案内」を見直しました

「全学共通教育履修案内」は毎年、見直して改良を重ね、少しずつバージョン・アップをしてきていますが、平成 28 年度は、「eplus」のメンバーに「履修案内」を熟読してもらって、新入生により分かりやすく見やすい表現やレイアウトに変えました。今回、とくに力を入れたのは、「履修案内」の表紙です。この表紙には、教養教育推進部門の強いメッセージがこめられています。



TOPIC
6

「パーティーゼミ」をプレ開講しました

「eplus」のメンバーは、かねてから学部の枠を超えた、学部混成型のゼミをやりたいと言ってきました。現在、全学共通教育科目の中に「初年次セミナー」というゼミがありますが、以前は「教養セミナー」という名称で開講していました。「教養セミナー」は、同じ学部、同じ専攻の学生で構成されている現在の「初年次セミナー」とはちがって、互いに異なる経歴、背景、興味、関心をもった各学部の 1 年生が、共通のテーマについて学び、意見交換をし、議論を深め、相互理解へとつなげて行くことを目的としていました。「eplus」のメンバーの考えでは、この「教養セミナー」のようなゼミを 1 年生対象ではなく、3 年生、大学院生といった高年次で開講したいと言うのです。

そこで、試みに平成 28 年度は、教養教育推進部門の先生方を講師として、ゼミを開くことにしました。毎月 1 回、金曜の夜に岐阜大学サテライトキャンパスで開き、ゼミの後は、必ず？飲みに行く、という趣旨なので、「パーティーゼミ」という名称に決めました。

「パーティーゼミ」の第 1 回目（2016 年 10 月 14 日）は廣内大輔「大学について語ろう」、第 2 回目（11 月 11 日）は櫻田修「大学の環境への取り組みから考えてみよう」、第 3 回目（12 月 9 日）は前澤重禮「岐阜の食を楽しもう」、第 4 回目（2017 年 1 月 6 日）は野村幸弘「芸術がわかる、ってどういうこと？」というタイトルで、いずれも金曜の 17 時から 19 時まで、学生と教員が 10 人ほど参加して、レクチャーとディスカッションが行われました。そのあとは、議論は夕食会でも続き、21 時頃、散会となりました。



第 4 回目の「パーティーゼミ」は、岐阜大学サテライトキャンパスのミーティングルームで開かれ、学生 5 人、教員 6 人が参加しました。



レクチャー後の夕食会が終わり、店の前で記念撮影。

この度、
私達はマルチな学部の教授たちによる
金曜夜の
PARTY ゼミ を開催します。

主催：eplus(教育企画立案学生チーム) 協力：教育推進・学生支援機構

あなたは専門分野以外のことをどれだけ知っていますか?他学部の教授を知っていますか?
他分野に興味がある、教授ってどんな人だろう、そんな思いから私達はゼミを開催します。
毎回様々な分野の教授を招き、各専門や授業では語れないそんな裏話もこっそり聞けちゃいます。

時間：毎月第2金曜日 17:00 - 19:00
場所：サテライトキャンパス
岐阜スカイウィング37東棟4階

△ 学部、学科不同 ・ 単位の参加可
・ 参加費無料 ・ 履修登録不要
・ 単位は出ません ※お茶なら出ます
・ ゼミ後にはお楽しみがある...かも

第1回 10月14日(金) 廣内大輔 先生 「大学について 語ろう」	第3回 12月9日(金) 前澤重禮先生 「岐阜の食を 楽しもう」	第4回 1月6日(金) 野村幸弘 先生 「芸術がわかる、 ってどういう こと？」
第2回 11月11日(金) 櫻田修 先生 「大学の環境への取り 組みから考えてみよう」	問い合わせ先： eplus@fud@gmail.com ゼミを行ってほしい先生の 希望、テーマ募集中。	

教養図書コーナーを設置しました

岐阜大学の7項目ある「学生憲章」のいちばん最初に「本をたくさん読み、学んでいく上での土壌を作ろう。」と書かれているのをご存知でしょうか。自分の専門分野の本だけでなく、広くさまざまな分野の本を、若い時にたくさん読むことは、社会に出てからもきっと役に立つことと思います。そこで平成28年度の後学期から、図書館2Fの南側の書架に「教養図書コーナー」を設置しました。ここには、人文科学、社会科学、自然科学、語学、スポーツ・健康の各分野から、読みやすく分かりやすい入門書をはじめ、マンガで読める哲学や文学のシリーズ、自然科学の初心者向けのシリーズなどを中心に本を集めてみました。今後も、この教養図書の蔵書を少しずつ増やして、充実させて行く予定です。まずは、図書館の2Fの「教養図書コーナー」の前に立って、本棚を眺め、面白そうなタイトルの本があれば、ぜひ手にとってみてください。



「雑学・濫読のススメ」と題した「教養図書コーナー」の書棚。分野別、著者別に分類されています。まだ書棚にアキがありますが、徐々に充実させて行く予定です。



「マンガで読破シリーズ」、very short introductions シリーズ、「今日からモノ知り」(トコトンやさしい) シリーズ、「基礎シリーズ」を全巻、取り揃えています。ほかのシリーズものも、順次、加えていきます。

「教養ブックレット」vol.10 を刊行します

教養教育推進部門は、平成20年度から、学生の自立的学修を支援する目的で、「教養ブックレット」を毎年1、2冊のペースで刊行し、今年度で10冊目の刊行の運びとなりました。これまで、第1分冊『人生を決めた書物』(平成20年度)、第2分冊『大学で勉強する方法』(平成21年度)、第3分冊『日本脱出! 留学のすすめ』(平成22年度)、第4分冊『世紀の発明・発見』(平成23年度)、第5分冊『大学で「使える」英語を学ぶ方法』(平成24年度)、第6分冊『岐阜をもっと知ろう!』(平成25年度)、第7分冊『リベラル・アーツ 社会科学入門』(平成25年度)、第8分冊『小説を読もう!』(平成26年度)、第9分冊『学問との出会い』(平成27年度)を刊行してきました(下写真)。そして今回のテーマはズバリ! 「教養を身につけよう!」です。教養ブックレット・シリーズは、学生や教職員といった学内のみならず学外でも好評を博してきましたが、その意味で、教養ブックレット・シリーズは、岐阜大学における教養教育の知的伝統を形成するに至っていると言えるでしょう。



教養教育
NEWS
スタッフ

教養教育推進部門 (2016年4月現在)
 部門長 野村幸弘 専門分野 美術史学
 副部門長 櫻田 修 専門分野 化学(無機材料)
 副部門長 橋本永貢子 専門分野 言語学
 副部門長 篠原 新 専門分野 政治学

学修支援部門 (2016年4月現在)
 副部門長 廣内大輔 専門分野 高等教育論



岐阜大学 教育推進・学生支援機構 教養教育推進部門

〒501-1193 岐阜市柳戸 1-1
 TEL.058-293-2169
 email gjea01008@jim.gifu-u.ac.jp